

## 今号の作業

# ドライブsproケットを取り付け、 車体を仮組みする



今号では「ドライブsproケット」を提供する。これにより、先号までに組み立てたパーツやユニットの大半をメインフレームへ取り付けることが可能になる。そこで今回は、今後の作業を潤滑に進められるよう、マシン全体の仮組みを行おう。

### 今号のパーツ



- ① ベースフレーム5×1
- ② メタルクリップE×1
- ③ キャブレターチューブ×4
- ④ ドライブsproケット
- ⑤ 4×9mmワッシャー付きビス×4
- ⑥ ビス(Eタイプ)×3  
(※1本は予備)

※①②⑤は今回使用しないので、大切に保管しておこう。

#### 用意するもの

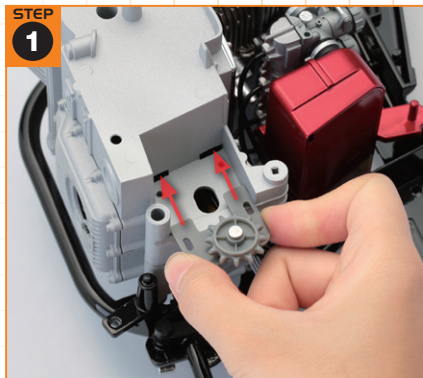
- ・多用途接着剤(セメタイン「スーパー-X-G」推奨)
- ・マスキングテープ
- ・ドライブチェーン(30号で提供したもの)
- ・リヤフォーク(33号で組み立てたもの)
- ・フォークピボットシャフト(33号で提供したもの)
- ・メタルナット(33号で提供したもの)
- ・メインスタンド(37号で組み立てたもの)
- ・IRセンサーウインドウ(39号で提供したもの)
- ・ワイヤーケーブル×2(40号で提供したもの)
- ・ミッション&ダイナモケースカバー(45号で組み立てたもの)
- ・ビス(Eタイプ)×1(45号で提供したもの)
- ・メインフレーム左(51号で組み立てたもの)
- ・メインフレーム右(52号で組み立てたもの)

#### 使用する道具

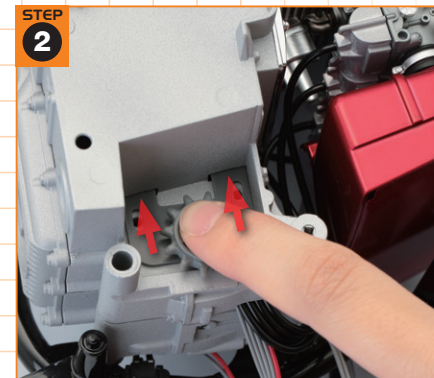
- ・+(プラス)ドライバー(1番)
- ・ピンセット
- ・ラジオペンチ
- ・クロスレンチ(9号で提供したもの)

※モデルの設計上、パーツの形状が実車とは異なる場合があります。

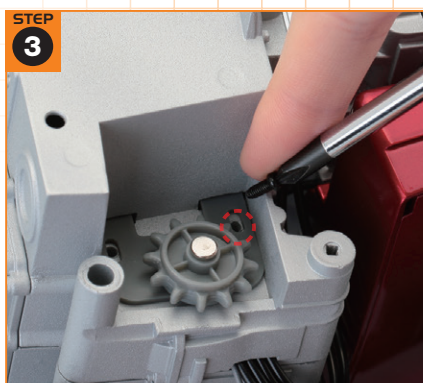
※「組み立てガイド」で紹介しているパーツは実際に付属するパーツと一部仕様が異なる場合があります。



52号で組み立てたメインフレーム右を用意し、左側面を上にして静かに置く。次に④ドライブsproケットを用意し、クランクケース左後端の取り付け部にセットする。



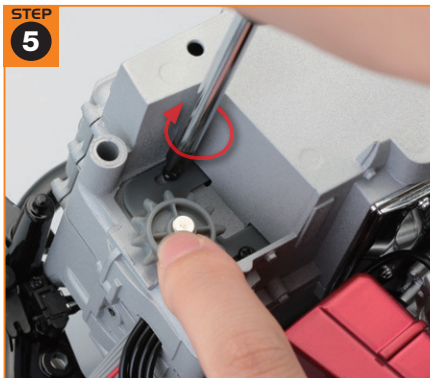
ドライブsproケットの先端部分をクランクケースのスリットに差し込み、そのまま取り付け部にスライドさせる。



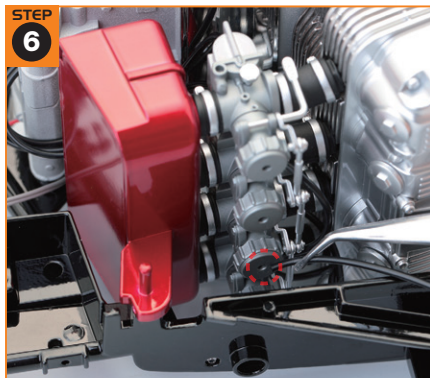
⑥ビス(Eタイプ)を用意し、1番の+(プラス)ドライバーの先端にはめ込み、そのまま写真に示したビス穴へセットする。



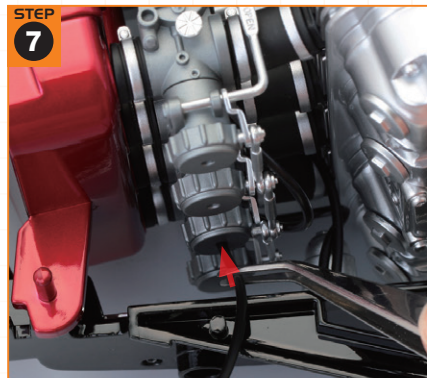
Eタイプのビスを真っ直ぐにねじ込み、ドライブsproケットを仮止めする。この段階ではビスを完全に締め込まず、ドライブsproケットが前後に軽くスライドできるようにしておくこと。



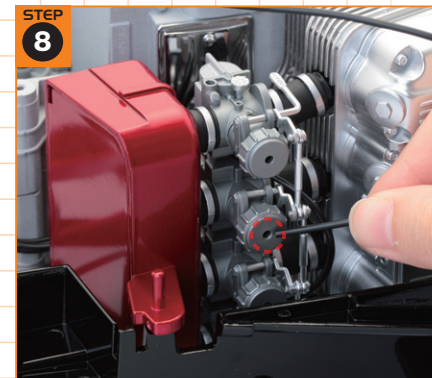
STEP 5  
もう片方のビス穴にもEタイプのビスをセットし、ドライバーでねじ込んで仮止めする。もしビスがねじ込みにくい場合は、①でドライブスプロケットをセットする前に、クランクケース側のビス穴にタップを立てておくといい。



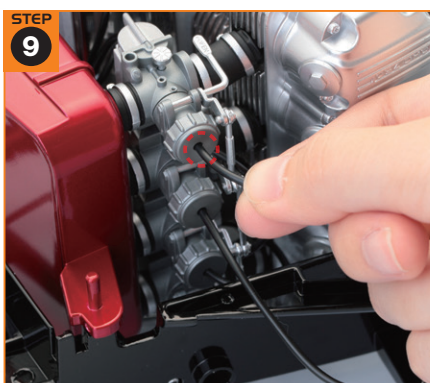
STEP 6  
次はキャブレターチューブの取り付け作業を行う。③キャブレターチューブを4本すべて用意し、上から3番目のキャブレター上部に設けられた取り付け穴へ、ピンセットを使って差し込む。



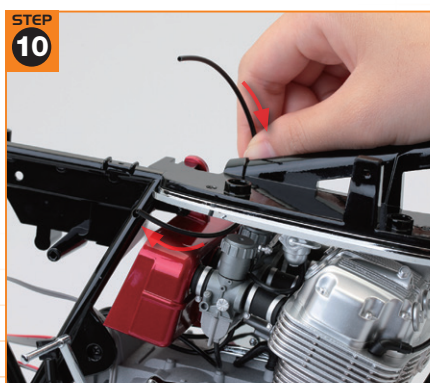
STEP 7  
キャブレターチューブを少しずつ送り込む。



STEP 8  
次に、上から2番目のキャブレターにも、キャブレターチューブを差し込む。



STEP 9  
一番上になっているキャブレターにも、同じ要領でキャブレターチューブを差し込んでおく。



STEP 10  
メインフレーム右を静かに起こし、最後に残ったキャブレターチューブをタンクモール右とキャブレターの間を通して、端をフレームの外に引き出す。



STEP 11  
ピンセットを使い、キャブレターチューブを一番右側となるキャブレター上部へ差し込む。



STEP 12  
キャブレターチューブの端は、プラグコードと同様にメインフレームの合わせ目近くでひとまとめにし、マスキングテープを軽く巻いて束ねておこう。



STEP 13  
33号で提供したフォークピボットシャフトを用意し、メインフレーム右の写真に示した穴へ差し込む。



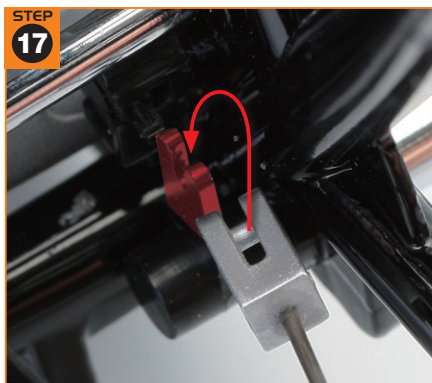
STEP 14  
フォークピボットシャフトを矢印の方向に引き出す。



STEP 15  
33号で組み立てたリアフォークから、チェーンカバーを取り外す。



STEP 16  
フォークピボットシャフトに、リアフォークを取り付ける。リアフォークのフロント寄りの穴の右側からピボットシャフトを差し込む。



STEP 17  
リアフォークを途中まで差し込んだら、リアブレーキロッド先端をリアブレーキスピンドル上部の窪みにセットする。



STEP 18  
指先で慎重に位置を合わせ、リアブレーキスピンドルとリアブレーキロッド先端をはめ込む。



STEP 19  
フォークピボットシャフトが抜け落ちないようにフレーム右側から端部分を押しつつ、リアフォークを奥まで押し込む。



STEP 20  
30号で提供したドライブチェーンを用意し、ドライブsprocketの歯と噛み合うように取り付ける。



ドライブチェーンを広げてファイナルドライブ sprocketにかぶせる。この時、写真に示した部分のみ歯と噛み合わせておく。



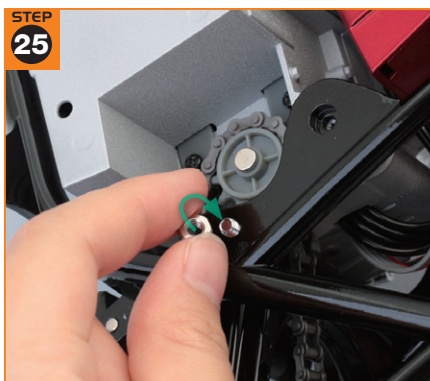
ファイナルドライブ sprocketを写真の方向へゆっくりと回し、ドライブチェーンを sprocketの歯と噛み合わせていく。



51号で組み立てたメインフレーム左を用意し、メインフレーム右と合わせる。なお、37号で組み立てたメインスタンドもこの段階でセットする。セットの仕方は、49号の組み立てガイドを参照しよう。各ケーブルは、写真を参考にして左右フレームにはさまない位置にまわしておく。



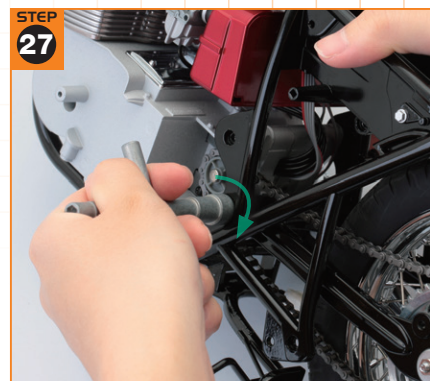
49号で行った仮組み作業と同じ要領で、メインフレーム左右をはめ合わせる。この時、写真に示した穴からフォークピボットシャフト先端を突き出させる。



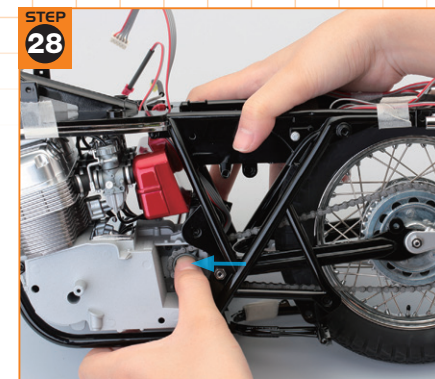
33号で提供したメタルナットを用意し、突き出したフォークピボットシャフト先端にセットする。



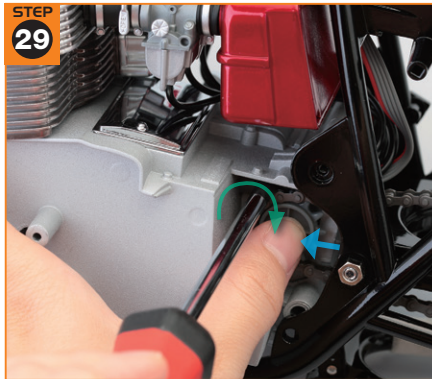
指先でメタルナットを右回りに回してねじ込む。



クロスレンチを用意し、一番大きい六角穴へメタルナットをはめ込み、そのまま右回りに回して締め込む。フォークピボットシャフトの反対側の端が回るくらいまで締め込めばOKだ。



ドライブ sprocketをフロント方向へスライドさせ、ドライブチェーンの張り具合を調整する。



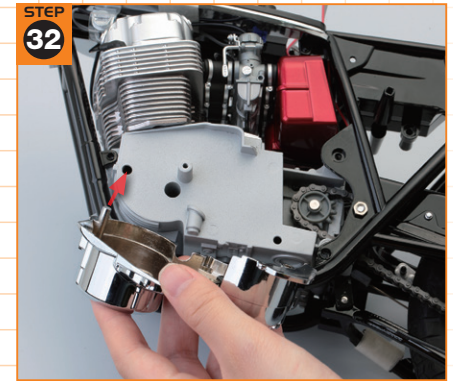
1番の+(プラス)ドライバーを使い、ドライブスプロケットをクランクケースに取り付けているEタイプのビスを少しだけ締め込んで、スプロケットを固定する。



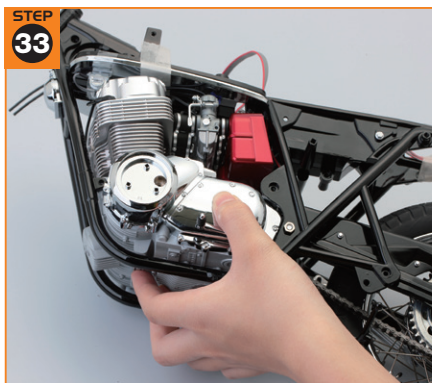
ドライブチェーンの中央付近を上から軽く押し、少しだけたわむことを確認する。たわみが大きいとチェーンが外れやすいので、写真程度になるようドライブスプロケットの固定位置を調整しよう。



取り外しておいたチェーンカバーを再度取り付ける。



45号で組み立てたミッション&ダイナモケースカバーを用意し、クランクケース左側にセットする。



ミッション&ダイナモケースカバーのリア側を、フレームの下に差し込むようにセットし、取り付け位置を合わせてクランクケース左側にはめ込む。



45号で提供したEタイプのビスを用意し、写真に示したビス穴へセットする。



1番の+(プラス)ドライバーを使い、ビスをねじ込んでミッション&ダイナモケースカバーをクランクケース左側に取り付ける。



多用途接着剤を用意し、付属のヘラ(もしくは“つまようじ”の先端など)に少量だけ出す。

STEP  
37



39号で提供したIRセンサーウィンドウを用意し(※取り付けがある場合は一度取り外す)、取り付け部のピンの側面のみ、多用途接着剤をごく少量だけ塗布する。その後、接着剤が完全に固まるまで放置する。

STEP  
38



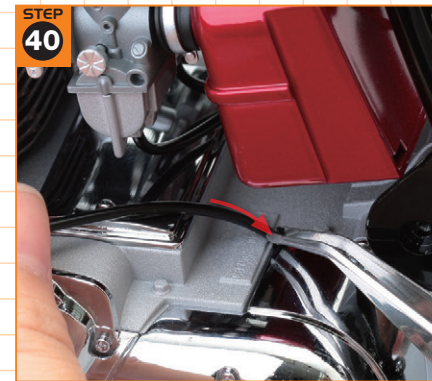
IRセンサーウィンドウをオイルパンの取り付け部に押し込む。取り付けにくくなった場合は、ピンに塗布した接着剤のどれか一カ所をはがして調整する。

STEP  
39



40号で提供した2本のワイヤーケーブルを用意し、1本を写真に示した“すき間(クランクケース左と、ミッション&ダイナモケースカバーとの接合部)”に差し込む。

STEP  
40



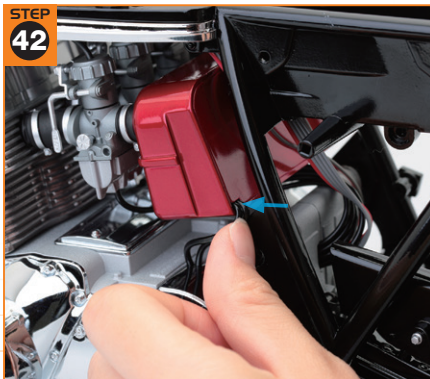
ピンセットを使い、差し込んだワイヤーケーブルを中へ送り込む。クランクケースの外に、6cm程度出ていればOKだ。

STEP  
41



残りのワイヤーケーブルも同様に差し込んだら、ワイヤーケーブルの端を2本まとめてピンセットでつまみ、エアクリーナーケース背面の左下にある穴へ差し込む。

STEP  
42

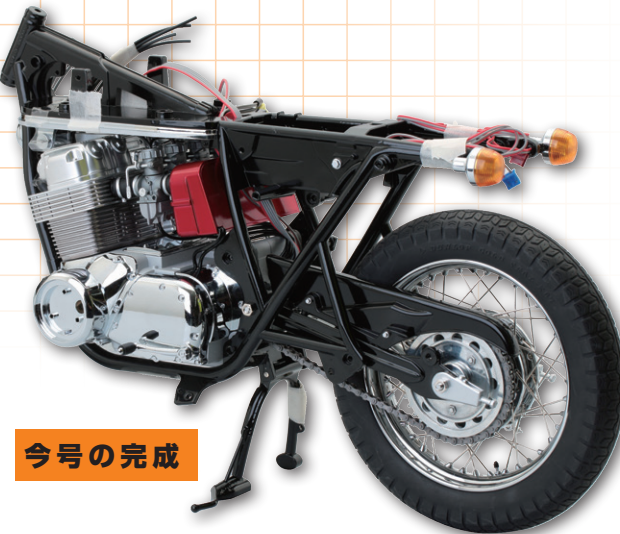


指先などを使い、差し込んだワイヤーケーブルを中に押し込む。

STEP  
43



メインフレーム右を前面にして立て、ブレーキペダルを押し下げてリアブレーキロードが動くことを確認する。写真のように動けばOKだ。



今号の完成

これで今回の作業は完了だ。なお、今回の作業で取り付けした「ワイヤーケーブル」だが、端をエアクリーナーケースに差し込んでいるのは「モデル化のためのアレンジ」であることをお断りしておく。実際にはメインフレームに沿わせるのだが、それでは組み立て作業が非常に難しくなるからだ。もし、より忠実に実車を再現したいのであれば、実車のケーブル配置再現に挑戦してみるのもいいだろう。なお、現状のメインフレームは仮組み状態なので、くれぐれも慎重な保管を心がけよう。